《専門科目》

科目名	保育の造形Ⅱ				
担当者氏名	大野　琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
演習を通して保育者が幼児の造形活動を活発にするために必須な知識と技能を学ぶ授業である。
Ⅱにおいては、特に立体造形(紙工作、粘土や身近な材料を使いながら「つくる」「造形遊び」）の指導を行うための、基礎技能を身につける。

《授業の到達目標》
幼児の造形表現活動を活発にするため、造形表現の意義、目的や幼児の造形的発達段階を理解するとともに、基礎的な造形技法や造形表現に関する指導法を身につける。

《成績評価の方法》
製作の取り組み３０％、製作した作品３０％、課題レポート４０％を資料とし、学期末に総合的に評価する。

《テキスト》
槇英子『保育をひらく造形表現〈第２版〉』萌文書林,2018

《参考図書》
文部科学省「幼児教育要領」フレーベル館
厚生労働省「保育所保育指針」フレーベル館
内閣府（文部科学省・厚生労働省）
「幼児連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館
学び合い高め合う「造形遊び」東洋館出版社
小学校教科用図書「ずがこうさく1・2上下」開隆堂出版社

《授業時間外学習》
各時間ごとに掲載した「準備学習」の教科書を事前に読んでおき、材料を準備しておく。（本授業では15時間の時間外学修が必要です。）

《課題に対するフィードバック等》
授業内で適宜フィードバックを行い、最終提出したテキストにコメントを付してフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児の造形活動と造形的発達	造形表現内容の構成・幼児の立体造形の発達段階的特徴を学ぶ。 〔準備学習〕教科書　P75～P82 第4章を読んでおくこと。
2	新聞紙を使った造形遊び	新聞紙の特徴を知り、その特徴を活かし造形遊びを体験 〔準備学習〕教科書　P23～P24 ①新聞紙で遊ぼう！を読んでおくこと。
3	新聞紙を利用した粘土づくり	新聞を原料とした紙粘土の製作 〔準備学習〕新聞紙粘土の作り方を事前に調べておくこと。
4	絵具の種類と着色のしかた	様々な粘土の種類と特徴を知り、紙粘土に着色方法を体験 〔準備学習〕教科書　P132～P133 色で遊ぶを読んでおくこと。
5	「紙コップ」を使った紙工作	素材の特徴を活かした幼児のおもちゃの製作 〔準備学習〕紙コップを使った造形活動の実践例を調べておくこと。
6	「紙皿」を使った紙工作	材料の特徴を活かしたおもちゃや掲示物の製作 〔準備学習〕紙皿を使った造形活動の実践例を調べておくこと。
7	「ペットボトル」を使った工作	ペットボトルを利用したおもちゃの製作 〔準備学習〕ペットボトルを使った造形活動の実践例を調べておくこと。
8	「封筒」を使った紙工作	封筒を使ったおもちゃの製作 〔準備学習〕封筒をどのように活用するか試しておくこと。
9	「色水」を使った造形遊び	色の三原色を使い、その特徴を活かした造形遊びを体験する。 〔準備学習〕教科書　P24～P25 色に遊ぶ・P71 色彩表現の特徴を読んでおくこと。
10	「紙」を使って①	クリスマスカードの製作 〔準備学習〕グリーティングカードの種類や特徴をまとめておくこと。
11	「紙」を使って②	年賀状の製作 〔準備学習〕干支やお正月を意識して、年賀状のデザインを考えておくこと。
12	「紙」を使って③	カレンダーの製作 〔準備学習〕年中行事や季節ごとの特徴的なモチーフについてまとめておくこと。
13	多様な粘土を使って	様々な粘土の種類と特徴を知り、発達段階に合った造形遊びを体験(グループワーク) 〔準備学習〕テキスト　P5～P10とP17を読んでおくこと。
14	対象年齢にあった絵本の選び方	対象年齢にあった絵本の選び方（予習1時間、復習1時間） 〔準備学習〕幼少期自分の好きだった絵本を読み返しておくこと。
15	保育の造形Ⅱ授業の振り返り	授業を振り返り、学びを深める（復習3時間） 〔準備学習〕テキストを完成させておくこと。

《専門科目》

科目名	教育実習Ⅱ				
担当者氏名	桐原　由美、馬場　結子				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
本科目は、幼稚園教諭免許を取得するにあたり不可欠となる教育実習である。２年次には責任実習を実施し、子どもの成長を支え、適当な環境を与えることのできる専門職として必要な理論と実践について学習する。また、社会人としてのマナーを身につけ、「育てたい保育者像」の具現化を目指す。

《授業の到達目標》
所定期間の実習において真摯に現場指導者及び幼児から学び取ろうとする姿勢を育むと共に、幼稚園教諭に求められる記録力、考察力、実践力を更に培い、社会性、協調性をもって愛情豊かに子どもを見つめることのできる専門性を獲得する。

《成績評価の方法》
≪成績評価の方法≫
実習日誌30%　実習先評価50%　提出物20%で教育実習を総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》
〇幼稚園教育要領および同解説 〇小櫃智子他編著「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社　2015 〇実習の手引き（国際学院埼玉短期大学幼児保育学科）

《参考図書》
〇「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」および同解説
〇大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規 2020
〇植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
〇無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研 2017

《授業時間外学習》
〇実習生として求められる最低限の社会的良識を備えておく。〇部分実習・責任実習に向けて教材研究、指導案の作成等を行う。〇実習園にてオリエンテーションを実施し、その記録をまとめておく。 〇当日の実習日誌を記録し、次の日の課題を把握する。〇その他、教育実習指導Ⅱの講義内容を再確認し、事前準備を十分に行うこと。

《課題に対するフィードバック等》
提出物は内容を確認し、講評などでフィードバックするほか、返却時にコメントをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	責任実習に向けての準備①	保育に参加しながら、①保育の流れを理解する、②子どもに親しみ、子どもの行動の意図を理解し、教師としての援助の仕方を学ぶ、③保育の一部を担当する。
2	責任実習向けての準備②	保育に参加しながら、①子どもの発達、個人差について理解しその対応について学ぶ、②保育の一部を担当するために子どもの実情に応じた指導計画を立案し実践する。
3	責任実習	①指導計画を立案して全日指導を体験し、教師の役割・職務について理解を深める。②家庭・地域との連携や子育て支援について学び、幼稚園の社会的役割を考える。
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門科目》

科目名	保育実習指導Ⅱ				
担当者氏名	伊東　一誉				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
「保育実習Ⅱ」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。
①「保育実習Ⅱ」の意義、目的、内容の理解
②実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえた保育実践力の育成
③実習の総括と自己評価及び保育に対する課題や認識の明確化

《授業の到達目標》
①「保育実習Ⅱ」の意義・目的・内容について説明することができる。
②創造的表現力等、保育士として乳幼児と関わるうえで必要な技能を身につけて表現することができる。
③保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。
④保育に対する自己の課題を説明することができる。

《成績評価の方法》
模擬保育・保育技術などの発表40%、提出物60%で評価し総合的に評価し、60%を合格とする。

《テキスト》
保育所保育指針解説　厚生労働省編　フレーベル社

《参考図書》
汐見稔幸「保育所保育指針ハンドブック2017年告示版」学研

《授業時間外学習》
名札・自己紹介グッズの作成や絵本や・紙芝居、素話の練習など、保育実習にかかわる活動を自己学習の中で行う。
また、教材研究や指導案の作成を行う。
自己学習として１５時間以上を要する。

《課題に対するフィードバック等》
授業時間内はもとより次授業においてフィードバックをする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習Ⅰの振り返り 授業計画について	①「保育実習指導Ⅱ」の授業の進め方の確認 ②「保育実習Ⅰ」におけるエピソードや学習内容についての振り返り
2	実習の意義	①保育実習の意義とねらい・内容についての理解 ②実習施設についての理解と学習（ワークシート）
3	保育士の役割と生活	①保育士の資質と役割についての理解 ②保育所の生活（デイリープログラムや保育所の特性）についての事例研究
4	保育の一日を知る	①保育の現場における一日（映像視聴） ②映像を通した気づきと自己課題への置き換え（ディスカッション）
5	子ども理解	①多様な子どものニーズや抱える課題についての理解 ②子どものもつ課題に対する事例研究（ディスカッション）
6	子育て支援	①保育の現場における保護者支援についての理解 ②保護者支援の実際（グループワーク）
7	観察と記録	①観察の視点と記録の方法についての学習 ②実習における観察と記録（グループワーク）
8	指導計画立案（部分実習）	①部分実習の目的と内容についての確認 ②指導計画の立案（ワークシート）
9	指導計画立案（責任実習）	①責任実習の目的と内容についての確認 ②指導計画の立案（ワークシート）
10	模擬保育（年長児）①	①年長児模擬保育実践（グループワーク・プレゼンテーション） ②実践に対する見直し
11	模擬保育（年長児）②	①年長児模擬保育実践（グループワーク・プレゼンテーション） ②実践に対する見直し
12	保育教材の研究①	①絵本・手遊び・紙芝居についての事例研究 ②題材の検討と制作
13	保育教材の研究②	①題材の制作 ②教材の使用と見直し（グループワーク）
14	実習の振り返り	①実習における学びに関する討議（グループワーク） ②実習の総括と自己評価
15	今後の課題	①保育実習Ⅱと本授業の振り返り ②卒業後の進路の展望と自己課題の明確化

《専門科目》

科目名	保育実習指導III				
担当者氏名	東　敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本科目では「保育実習III」では、施設保育士に必要な基礎的知識・技術，職業倫理などをもとに、実際の現場において必要となる観察のポイント、情報収集の整理の仕方、チームワークをすすめていく上で必要なコミュニケーションスキルについてグループ討議などを通して学ぶ。

《授業の到達目標》
①福祉施設の役割と機能を体験を基に具体的に説明できる。
②児童家庭福祉・社会的養護・障害者福祉に係る理解を基に，家庭や地域での生活実態に即した保護者・家庭支援のための知識，技術について論じることができる。
③保育士や支援員の業務内容・職業倫理について具体的に理解し，実践に適用できる。
④専門職としての自己の課題を明確に述べることができる。

《成績評価の方法》
実習前試験60%，グループワークや授業における発言20%，実習書類・提出課題20%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
●守巧他「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，2014
●「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》
●全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会発行,2018

《授業時間外学習》
これまでに学習してきた科目、および、保育実習指導I（施設）、保育実習I（施設）で学んだ内容を復習してください。授業の中で明確となった、個々の目標などを確認しながら、実習に取り組み、事後学習を通して、施設保育士への理解を深めてください。（時間外学習時間は15時間です。）

《課題に対するフィードバック等》
各自の実習の振り返りをグループで共有し、討議していきます。教員は適宜コメントをしますが、メンバー間での話合いを通じて、多様な考え方を取り入れる姿勢を評価します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の意義と目的	保育実習IIIの意義と目的，実習全体のプロセスを理解する。 予習：教科書②，教科書①該当箇所　復習：授業配布プリント
2	資料作成の方法	保育実習I（施設）を振り返りまとめ、発表資料を作成する。 予習：実習日誌等の振り返り　復習：各自発表資料作成・発表練習
3	実習施設についての情報共有	前回の授業でまとめた各自の実習施設について発表し情報を共有する。 予習：実習日誌等の振り返り　復習：発表内容の整理
4	実習課題の設定・実習日誌の書き方	保育実習Ⅰ（施設）の振り返りから保育実習IIIでの実習課題を明確化する。 予習：実習日誌等の振り返り　復習：実習における自己課題をまとめる
5	施設職員の職種と役割	施設において利用者・利用児を支援する専門職の職種と役割について学ぶ。 予習・復習：児童福祉分野の専門職の職種と役割についてまとめる
6	施設職員の援助技術	対人援助におけるの利用児・者への受容的態度と共感的態度、ニーズを把握する意義とその方法について学ぶ。　予習・復習：授業配布プリント
7	福祉施設利用児・者の理解と権利擁護	「子どもの最善の利益」について学ぶとともに、具体的な場面での実習生の言動について考える。　予習：全国保育士会倫理綱領の復習　復習：授業配布プリント
8	責任実習指導案の立案	施設養護や障害児・者支援についての理解を深め、責任実習の指導案を作成する。 予習・復習：各実習施設の利用者を想定して、責任実習の指導案を作成
9	模擬実習	立案した指導案に沿って模擬責任実習を行い、準備物や環境設定・言葉がけを振り返ることを通して指導案を訂正す　予習・復習：模擬保育の準備と指導案の訂正
10	実習関係書類の作成について	実習先施設や大学へ提出する書類の意義と作成方法について確認する。 予習：教科書②の熟読　復習：実習書類作成
11	各種計画の立案	個別支援計画、自立支援計画の意義と目的を理解し、作成の仕方を学ぶ。 予習・復習：授業配布プリント
12	実習前試験	施設実習実習に関する知識・手続き等，準備事項の理解度を確認する。 予習：これまでの授業の復習　復習：試験結果を振り返る
13	実習に向けての最終確認	実習後の施設への提出物と提出・受取方法、大学への提出物、お礼状の書き方等を確認する。　予習：教科書②　復習：授業配布プリント
14	実習の総括と自己評価	実習先評価や実習日誌・自己評価から、自己課題を明確化する。 予習：実習日誌・自己評価の振り返り　復習：自己課題の明文化
15	実習報告会	実習施設の概要や機能・役割、施設保育士の業務内容とその役割、実習総括と自己評価のまとめと発表をする。　予習：実習成果をまとめる　復習：既習事項を振り返る

《専門科目》

科目名	保育実習Ⅱ				
担当者氏名	伊東　一誉				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
「保育実習Ⅰ」での学びを基礎とした保育所での実践を通し、以下のことについて学ぶ。
①保育士としての資質・能力・技術を修得
②実習経験の集大成としての責任実習の実施
③家庭と地域の実態と子ども家庭福祉ニーズの理解
④子育て支援のために必要とされる理解力・判断力の育成

《授業の到達目標》
①保育にかかわる基本的な知識を自己の将来設計や課題と関連づけて説明することができる。
②保育士としての責務を説明することができる。
③コミニケーション能力・創造的表現力・倫理的思考力・問題解決能力・保育技術など、保育士として必要な技能を身につけて表現することができる。

《成績評価の方法》
実習先の評価25%、実習日誌50%、提出物25%で総合的に評価し、60%以上を合格させる。

《テキスト》
必要に応じて資料配布をする。

《参考図書》
汐見稔幸監修「保育所保育指針ハンドブック2017告示版」学研

《授業時間外学習》
絵本・紙芝居・素話・ピアノなど、保育実習にかかわる技能に関する反復練習を自己学習の中で行う。
また、教材研究と指導案の作成を行う。

《課題に対するフィードバック等》
専門科目の単位修得状況、「保育実習指導Ⅱ」の評価により、校外実習への参加の是非を決定する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デイリープログラム	①保育所の状況と実習園についての理解 ②保育の現場における一日の流れについての学習
2	保育技術の習得	①乳幼児の遊びにかかわる保育技術（絵本の読み聞かせ、指遊びなど） ②生活における保育技術（言葉かけ、環境設定、時間配分など）
3	発達過程	①乳幼児の発達過程についての学習 ②事例研究（ディスカッション）
4	乳幼児理解	①乳幼児の発達過程をふまえた個人差についての理解 ②個人差についての対応方法の理解と検討（ディスカッション）
5	特別な配慮を要する子ども	①特別な配慮を要する子どもについての学習 ②対応方法に関する理解と検討（ディスカッション）
6	多様な保育サービス	①延長保育等多様な保育サービスについての理解 ②事例研究（体験学習）
7	指導計画立案(部分実習)	①部分実習における指導計画立案 ②指導計画の確認（プレゼンテーション）
8	指導計画立案(責任実習)	①責任実習における指導計画立案 ②指導計画の確認（プレゼンテーション）
9	家庭との連携	①保護者とのコミュニケーション方法の理解 ②事例研究（ディスカッション）
10	地域社会との連携	①地域社会との連携の理解 ②事例研究（ディスカッション）
11	乳幼児の最善の利益	①乳幼児の最善の利益への配慮 ②事例研究（ディスカッション）
12	倫理観	①保育士としての職業倫理の理解 ②事例研究（ディスカッション）
13	責任実習	①立案した指導計画の見直し ②指導計画に基づいた保育活動実践
14	実習の振り返り	①実習経験の記録作成 ②実習経験から得られる気づきと改善点、総括
15	今後の課題	①本授業における学習の振り返りとワークシートの製本作業 ②卒業後の進路の展望と自己課題の明確化

《専門科目》

科目名	保育実習III				
担当者氏名	東　敦子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本実習では保育実習Iでの学びを更に深めるため，施設実習を通して，対人援助技術の基礎を身に付けること，利用児者の個別支援計画を理解した上で実際の支援を行うこと，他職種・地域連携という視点から利用児者を様々な角度で支援することを学ぶ。

《授業の到達目標》
①施設の役割と機能について具体的に説明することができる。②個別支援計画から利用児者の個人差やニーズを把握し，個々に応じた支援を実践できる。 ③家庭支援や他職種との連携について具体的方法を論じることができる。 ④保育士としての自己課題を明確にし，対人援助職としての専門性を高める計画を立案することができる。

《成績評価の方法》
実習施設による評価50%，実習後の提出物の状況・実習への参加状況・実習日誌の記述内容（上記到達科目を観点とする）50%とする。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
●守巧他「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，2014
●「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》
●全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会,2018

《授業時間外学習》
「保育実習指導III」履修が必須となります。
実習までに，これまでの学修を振り返るようにしてください。
実習終了後は振り返りシートや自己評価票作成を行い，各自が実習を振り返り，自己の課題を明確にしてください。

《課題に対するフィードバック等》
実習先による中間評価や最終評価や，訪問担当教員による習中におけるフィードバックを実施します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	施設実習	児童福祉施設等における実習の実施
2	施設の役割と機能：一日の流れとプログラム理解	施設での生活、一日の流れ（生活の流れやプログラム・活動の流れ）について実践を通して理解する
3	施設の役割・機能の理解	実習での具体的取り組みを通して、実習施設の役割は何か、どのような機能を有しているのかについて理解する
4	利用児・者一人一人に応じた関わり	実習施設の利用児・者との関わりと支援を通して、それぞれの施設の役割・機能、個々の対象に対する支援方法や技術を高める
5	計画に基づく活動や援助・支援	実習施設の理念・目的、個々の支援計画に基づく活動や援助・支援がどのように実践されているのかを理解し、自らもその活動・支援を実行し改善を図る
6	利用児・者の心身の状態に応じた対応	国際生活機能分類（ICF）の考え方に基づいた利用児・者の理解を不断に試み、障害に対する合理的配慮および発達的側面からの支援についての専門性を高める
7	利用児・者の活動と生活の環境	実習施設の利用児・者の活動・生活環境はどのような目的で構成・構築されているか、実践を通して理解し、自らも環境構成に努める
8	健康管理・安全対策の理解	実習施設において、利用児・者及び職員の健康管理や安全対策はどのように実行されているか、職員との関わりや聞き取り等によって理解・実践し、専門性を高める
9	支援計画の理解と活用	個人情報の取り扱いについて十分配慮されたうえで、利用児・者の状態と（個別）支援計画について理解し、どのように支援計画が活用されているか考察を深める
10	記録に基づく省察・自己評価	実習日誌へ日々記録していく中で、自らの関わりや考えを言語化し整理することを通して、実習施設及び利用児・者への理解を深め、日々の支援方法の改善に努める
11	保育士・生活支援員の業務内容の理解	実習施設における保育士及び生活支援員等はどのような役割・業務内容を担っているか、実践を通して理解し、対人援助職としての保育士について考察を深める
12	職員間の役割分担と連携についての理解	様々な専門職がどのような役割を担い、利用児・者のためにどのような連携が行われているかを可能な限り観察・共に実践し、連携についての理解を深める
13	利用児・者の家庭への支援についての理解	可能な限り、利用児・者の家庭の実態に触れ、児童家庭福祉、社会的擁護、障害児・者支援に対する理解を基に、家庭支援の知識・技術・判断力を養うよう努める
14	地域社会との連携についての理解	実習施設の地域活動や地域サービスに参加して、施設の地域における役割や機能、地域のニーズについて理解を深める
15	施設実習の振り返りと自己課題の明確化	実習施設での観察・実践、実習日誌への記録による振り返りを通して、保育士としての役割と職業倫理、自らの今後の新たな課題について明確にする

《専門科目》

科目名	子ども家庭福祉				
担当者氏名	佐野　裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
少子化の進行や虐待、貧困など子どもを取り巻く問題は深刻化している。この講義では、子どもと家庭のウェルビーイングをめざす保育とその根底にある子どもの人権について学ぶ。また、グループワークやディスカッション、発表等により子どもと家庭の福祉に関する実践的知識や実践的技能を習得する。

《授業の到達目標》
①子どもの人権と子ども家庭福祉の理念について説明できる。
②子ども家庭福祉の法制度と実施体系について説明できる。
③子ども家庭福祉の現代的課題を理解し、支援・援助を行う際に必要な実践的知識、実践的技能を習得することができる。

《成績評価の方法》
レポート（30%）定期試験（70%）
総合して60点以上を合格とする。

《テキスト》
新保幸雄・小林　理編集:『新基本保育シリーズ３　子ども家庭福祉』,中央法規，2023年.

《参考図書》
・厚生労働省:『保育所保育指針解説』フレーベル館，2018年
・内閣府　文部科学省　厚生労働省:『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館，平成30年

《授業時間外学習》
①予習では教科書の該当するページを熟読し、疑問点をまとめておく。復習では授業のまとめや課題作成、また、疑問点を調べておき、次の授業時に担当教員に質問をする。
②子どもや家庭の福祉に関するニュースに関心をもち、情報をファイルしておく。

《課題に対するフィードバック等》
レポートなどの課題はコメントを記載し、翌週の授業内で返却する。また、授業終了後に教室で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの人権と児童の最善の利益	子ども家庭福祉を学ぶ意義、人権とは何か、子どもの人権 予習：テキスト3講を熟読(2時間）復習：子どもの人権についてまとめる(2時間)
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷	日本と海外の子ども家庭福祉の歴史と子どもの人権 予習：テキスト2講を熟読(2時間)　復習：日本と海外の歴史を比較する(2時間)
3	子ども家庭福祉の制度と実施体制	子ども家庭福祉の法制度、実施体制 予習:テキスト4講を熟読(2時間)　復習:妊娠～子育て支援まとめ(2時間)
4	少子化と子育て不安	少子化、子育て不安とは何か、子育て支援の在り方 予習：少子化について調べる(2時間)　復習：少子化と子育て支援のまとめ(2時間)
5	子ども虐待・ＤＶとその予防	子ども虐待・ＤＶとは何か、子ども虐待とＤＶの実情、グループ討議 予習：テキスト9講を熟読(2時間)　復習：子ども虐待の政策のまとめ(2時間)
6	貧困と家庭への対応	子どもの貧困とは何か、子どもの貧困に関する政策、制度 予習：テキスト10講を熟読(2時間)　復習:子どもの貧困に関する政策のまとめ(2時間)
7	少年非行等への対応	少年非行の定義と法律、社会的養護の現状と課題、グループ討議 予習：テキスト13講を熟読(2時間)　復習：社会的養護の課題のまとめ(2時間)
8	子どもの人権と現代的課題・討議	現代的課題(子育て不安・虐待・貧困・少年非行・子育て支援)、討議 予習：発表の準備確認(2時間)　復習：本題についてレポート作成(2時間)
9	子どもの人権と現代的課題・発表	現代的課題と保育者の役割について、各グループで発表 予習：発表原稿の準備確認(2時間)　復習：振り返りレポート作成(2時間)
10	障がいのある子どもへの対応	障がいのある子どもと家庭を支えるしくみ、障がい児支援の背景 予習：テキスト12講を熟読(2時間)　復習：保育士の役割まとめ(2時間)
11	子ども家庭福祉の施設と専門職	児童福祉施設の種類、保育所の位置づけと保育士の専門性 予習：テキスト5講を熟読(2時間)　復習:保育士の専門職のまとめ(2時間)
12	少子高齢化と地域子育て支援	少子高齢化の実態、子ども子育て支援制度と地域子育て支援 予習:テキスト6講を熟読(2時間)復習:地域子育て支援まとめ(2時間)
13	母子保健と子どもの健全育成	母子保健と子どもの健全育成の意義、保育サービスの動向 予習：テキスト7講を熟読(2時間)　復習：母子保健のまとめ(2時間)
14	多様な保育ニーズへの対応	多様な保育ニーズに対応する仕組み、支援者としての役割 予習:テキスト8講を熟読(2時間)　復習:多様な保育ニーズ、支援者のまとめ(2時間)
15	地域の連携と子育て支援ネットワーク	支援ネットワークの必要性、保育士の役割・討議、発表 予習:テキスト15講を熟読(2時間)　復習:支援ネットワークのまとめ(2時間)

《専門科目》

科目名	社会的養護Ⅰ				
担当者氏名	田中　久子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

本来子どもは安全かつ安心のできる家庭環境で成長、発達すべきである。しかし、何らかの事情でその家庭環境を奪われた子ども、あるいはその家庭環境にとどまることが望ましくない子どもが存在する。こうした子どもを国が責任を持って保護し援助する体制が社会的養護である。この授業では、時代とともに変化する子どもを取り巻く社会的課題や制度、専門職と人材や援助技術についての知識を修得する。

《授業の到達目標》

（１）社会的養護の意義と歴史的変遷を述べることができる。
（２）子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について説明することができる。
（３）社会的養護の制度や実施体系等について説明できる。
（４）社会的養護の対象や形態、関連する専門職等について述べることができる。
（５）社会的養護の現状と課題について説明できる。

《成績評価の方法》

リアクションペーパー及びワークシート評価（30%）、
定期試験（70%）
総合して60点以上を合格とする。

《テキスト》

新基本保育シリーズ６
相澤仁他編集「社会的養護Ⅰ」第２版　中央法規

《参考図書》

（１）小口尚子・福岡鮎美著「子どもによる子どものための子どもの権利条約」（小学館）
（２）福祉教育カレッジ「イラストでみる社会福祉用語事典（第2版）」テコム2017

《授業時間外学習》

（１）事前にテキストである本（教科書）の予習をし、専門用語や制度について学習しておくこと。
（２）社会福祉に関わるニュースや身近な事象を常に意識し、毎回のテーマについての疑問点、課題を整理しておく。
毎回の授業について、予習、復習（概ね2時間）の自己学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業内で、提出されたリアクションペーパーに対してフィードバックを行います。疑問点、質問は授業内及び授業後に受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的養護の理念と概念	社会的養護の基礎概念、理念や原理の理解 予習：教科書p2-12（2時間）　復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
2	社会的養護の歴史的変遷	欧米及び日本の社会的養護の歴史、子ども観の変遷を理解する 予習：教科書p14-24（2時間）　復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
3	子どもの人権擁護と社会的養護	子どもの人権擁護のとらえ方、擁護、虐待の予防や対応の在り方への理解 予習：教科書p26-36復習（2時間）：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
4	社会的養護の基本原則	家庭養護優先原則の根拠となる法律や条約、施策や動向を理解する 予習：教科書p38-48（2時間）　復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務	対人支援を行う支援者に求められる高い倫理観を理解する 予習：教科書p50-60（2時間）　復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
6	社会的養護の制度と法体系	「措置制度」とその背景原理、児童福祉法の概要、関連法規の理解 予習：教科書p62-72（2時間）　復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
7	社会的養護のしくみと実施体系	児相から施設、里親家庭に至るまでの過程を学び施設の概要課題を理解する 予習：教科書p74-84復習（2時間）：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク	ソーシャルワークの基本的視点や考え方を確認し、その展開を理解する 予習：教科書p86-96　（2時間）復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
9	社会的養護の対象と支援のあり方	予防的支援、在宅措置、代替養育を学び、対象者のニーズを理解する 予習：教科書p98-108（2時間）　復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
10	家庭養護と施設養護	家庭養護（里親やファミリーホーム）と施設養護の現状と課題を理解する 予習：教科書p110-120（2時間）復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
11	社会的養護にかかわる専門職	専門性や資格の種類、保育士とかかわる専門職、その他の職種を理解する 予習：教科書p122-132（2時間）復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
12	社会的養護に関する社会的状況	社会的養護体制の現状とその在り方、また存在意義について理解する 予習：教科書p134-144（2時間）復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
13	施設等の運営管理の現状と課題	施設運営の内容と費用の仕組み、あり方について理解する 予習：教科書p146-156（2時間）復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	施設入所児童等の虐待防止の経緯及び発生原因と課題の理解 予習：教科書p158-168（2時間）復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）
15	社会的養護と地域福祉の現状と課題	児童福祉施設の地域への貢献の必要性や今後の課題についての理解 予習：教科書p170-180（2時間）復習：教科書該当箇所　ワークシート（2時間）

《専門科目》

科目名	子ども理解				
担当者氏名	髙橋　淳一郎				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ◎　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》
子どもの生活や遊びの実態をディスカッション等を通じて理解を深め、それに即して子どもの発達や学びとその過程で生じるつまずきおよびその要因を把握するための原理や方法について演習を通じて学ぶ。

《授業の到達目標》
①子どもの発達および行動のアセスメントを実施できる。
②子どものつまずきの内容とその背景を説明できる。
③子どもの理解を深めるための基礎的な態度について説明できる。
④発達の連続性を理解し、就学への支援のあり方を考えることができる。
⑤予防的介入のあり方について考えることができる。

《成績評価の方法》
定期試験の得点を40%、授業内のワークの内容を40%、リアクションペーパーの記載内容20%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
次良丸睦子　他(編著)　2021　現代の子どもをめぐる発達心理学と臨床　福村出版

《参考図書》
佐藤公治　2019　発達と育ちの心理学　萌文書林
請川滋大　2020　子ども理解―個と集団の育ちを支える理論と方法　萌文書林

《授業時間外学習》
予習として次回授業の該当ページを精読し、自らの興味関心や疑問点などをまとめた「予習ノート」を作成する(30分)。授業後は予習ノートと授業内容を確認し、ノートを整理する(30分)。本授業は時間外学習として合計15時間の予習・復習が必要です。

《課題に対するフィードバック等》
リアクションペーパーの記載内容については次週の授業で振り返りをおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子ども理解の意義	子ども理解の重要性と心理学的知識の活用について理解する。＜授業外＞テキストの序章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
2	子どもの発達を概観する①	主として乳児期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。＜授業外＞テキストの第1章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
3	子どもの発達を概観する②	主として幼児期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。＜授業外＞テキストの第2章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
4	子どもの発達を概観する③	主として児童期と青年期の子どもの発達と学習の過程に関する理解を深める。＜授業外＞テキストの第3～5章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
5	特別な支援を必要とする子どもの理解①	主要な発達障害の症状と対応方法について理解する。＜授業外＞テキストの第6章第1～2節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
6	特別な支援を必要とする子どもの理解②	主要な発達障害の症状と対応方法について理解する。＜授業外＞テキストの第6章第3～5節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
7	子どもの精神疾患①	乳幼児期～児童期によく見られる精神疾患について理解する。＜授業外＞テキストの第7章第1節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
8	子どもの精神疾患②	乳幼児期～児童期によく見られる精神疾患について理解する。＜授業外＞テキストの第7章第2節を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
9	アセスメント①	子どもを理解しアセスメントする方法と目的について学ぶ。＜授業外＞テキストの第12章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
10	アセスメント②	検査によるアセスメントの方法について理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
11	アセスメント③	観察の方法と、それぞれの長所・短所を理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
12	記録と省察	アセスメントにおける記録の意義と情報の共有方法について理解する。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
13	就学への支援	発達の連続性を理解し、就学に向けた支援のあり方を考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
14	予防的心理教育①	一次的援助の理論について理解する。＜授業外＞テキストの第13章を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。
15	予防的心理教育②	一次的援助の方法について考える。＜授業外＞配布資料を精読し予習する(30分)。復習する(30分)。

《専門科目》

科目名	保育の計画と評価				
担当者氏名	馬場　結子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
園の保育をどのようにデザインするのかということを構想することが求められる。この授業では、保育現場における望ましい指導計画について考察する。授業では発表を予定している。

《授業の到達目標》
保育の計画を立てることができる。
指導案を作成することができる。

《成績評価の方法》
レポート70%、発表30%　総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
高橋弥生・大沢裕編著『コンパクト版保育者養成シリーズ　新版教育・保育課程論』一藝社

《参考図書》
谷田貝公昭代表編集『改定新版保育用語辞典』一藝社
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

《授業時間外学習》
指導案の作成について検討すること。
本授業では60時間の時間外学習を必要とする。

《課題に対するフィードバック等》
レポートについては授業において紹介したり、コメントする場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	指導計画とは	園の指導計画とは 事前学習：テキスト第1章・第2章を読むこと
2	幼稚園の指導計画	幼稚園の指導計画について 事前学習：テキスト第5章を読むこと
3	保育所の指導計画	保育所の指導計画について 事前学習：テキスト第6章を読むこと
4	認定こども園の指導計画	認定こども園の指導計画について 事前学習：テキスト第7章を読むこと
5	乳児の指導計画	乳児の指導計画について 事前学習：テキスト第8章および第9章を読むこと
6	幼児の指導計画	幼児の指導計画について 事前学習：テキスト第10章を読むこと
7	園の行事	園の行事について 事前学習：テキスト第12章を読むこと
8	保育の記録	保育の記録について 事前学習：実習日誌を参考に保育の記録について見直すこと
9	指導計画案１	指導計画案について 事前学習：テキスト第3章を読むこと
10	指導計画案２	指導計画案の作成１ 事前学習：テキスト第3章を読むこと
11	指導計画案３	指導計画案の作成２ 事前学習：テキスト第3章を読むこと
12	指導計画案４	指導計画案の発表１ 事前学習：テキスト第3章を読むこと
13	指導計画案５	指導計画案の発表２ 事前学習：テキスト第3章を読むこと
14	保育の評価	保育の評価について 事前学習：テキスト第14章および第15章を読むこと
15	望ましい保育の計画	望ましい保育の計画と実施について 事前学習：テキスト第13章を読むこと

《専門科目》

科目名	音楽表現領域指導法				
担当者氏名	越智　光輝				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
子どもの発達を意識した音楽活動について、フィールドワーク、グループワーク、個人およびグループによる発表を通じて学ぶ。学んだ音楽活動にもとづいて、模擬保育を実践する。

《テキスト》
渡邊雄介（監修）芳野道子・越智光輝（編著）　他
保育内容「音楽表現」　声から音楽へ 響きあう心と身体
福村出版株式会社

《参考図書》
必要に応じてプリントを配布する。

《授業の到達目標》
子どもの自由な音楽表現を受容できる保育者となるために、子どもの発達に応じた表現の領域におけるねらい等について説明できる。
楽器や身近な素材を用いて自由な音楽表現が実践できる。
音楽表現活動における子どもの発達に応じた導入方法を実践できる。

《授業時間外学習》
提示された課題への取り組み
発表に向けた自己学習
模擬授業に必要な備品の準備
（本授業では15時間の時間外学修が必要です。）

《成績評価の方法》
個人発表(10%)、グループ発表(50%)、課題提出(40%)で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》
提出された課題、個人やグループによる発表に対して、フィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	音を聴くことによる受容と表出	表現の領域における「ねらい」「内容」「内容の取扱い」に関するグループワーク 〔時間外学習〕日常生活で耳にする音についての調査（復習1時間）
2	いろいろな「音」の収集	身近で耳にする様々な音の収集と発表用資料の作成 〔時間外学習〕収集したデータの選別、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
3	収集した「音」についての発表	収集した「音」について、作成した資料を用いた発表 〔時間外学習〕発表にむけての準備（予習・復習1時間）
4	諸外国の音楽教育	エミール・ジャック=ダルクローズ、コダーイ・ゾルターンの音楽教育について 〔時間外学習〕リトミックについて調べておく（予習・復習1時間）
5	保育者としての歌唱	呼吸器官、発声器官、共鳴器官について学び、発声練習を実践 〔時間外学習〕呼吸器官を意識した呼吸法の実践（予習・復習1時間）
6	楽器との出会い	子どもがふれる楽器と楽器の特長に関するグループワーク 〔時間外学習〕学んだ分類方法を用いた楽器の分類（予習・復習1時間）
7	楽譜からの情報による印象の変化	「音楽の３要素」（メロディー、リズム、ハーモニー）が与える様々な印象 〔時間外学習〕提出した課題への取り組み（予習・復習1時間）
8	楽器を用いた自由な表現	楽器を用いた独奏曲の楽譜を個人で作成 〔時間外学習〕楽譜作成、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
9	作曲した独奏曲の発表（前半）	出席番号前半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 〔時間外学習〕発表の振り返り、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
10	作曲した独奏曲の発表（後半）	出席番号後半の学生による作曲したオリジナルの独奏曲の発表 〔時間外学習〕発表の振り返り（予習・復習1時間）
11	素材をいかした音作り	オリジナルの合奏曲(紙を用いて音を出す)の楽譜をグループで作成 〔時間外学習〕楽譜作成、発表にむけての準備（予習・復習1時間）
12	作成した合奏曲の発表	作曲したオリジナルの合奏曲をグループで発表 〔時間外学習〕発表の振り返り（予習・復習1時間）
13	音楽活動の計画	模擬保育(音楽活動)の計画と指導案作成 〔時間外学習〕指導案作成と模擬保育で使用する教材等の準備（予習・復習1時間）
14	音楽活動の実践	模擬保育の実践（1～3班の発表）と講評〔時間外学習〕模擬保育で使用する教材等の準備、実践した模擬保育の振り返り（予習・復習1時間）
15	音楽活動の実践に関するまとめ	模擬保育の実践(4～6班の発表)と講評 〔時間外学習〕実践した模擬保育の振り返り（復習1時間）

《専門科目》

科目名	身体表現領域指導法				
担当者氏名	古木　竜太				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

本科目は全15回の授業で「こころ」と「からだ」を用いた表現について、主にグループワークを通じて学ぶ。それは、自由な発想やイメージによる自己表現を共有する授業であり、あらゆる自己表現を互いに認め合う態度を養う。子どもの表現を引き出すためには、保育者自身が豊かな感性を磨いていく必要がある。そのために、自由に身体を動かす楽しさを学び、他者の表現を尊重しながらグループで協力して身体表現を創作する。

《授業の到達目標》

保育現場で実践できる身体表現技能を身につけるため、次の目標達成を目指す。①自らの体験を通して身体表現活動の楽しさを味わい、身体表現技能を修得できる。②保育活動の視点から、身体表現活動への展開方法について学び、保育現場で実用できる。③幼児の感性・創造性を尊重し、共感できる態度を身につけ、幼児の表現を評価できる。

《成績評価の方法》

授業内で実施する各種実技試験70%、毎回の学習記録30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

Microsoft社製のTEAMSを用いて、履修者専用のチームを作成し、必要に応じて資料を履修者専用チームにて提示する。

《参考図書》

①井上勝子他『新訂 豊かな感性を育む身体表現遊び』ぎょうせい
②魚住美智子、大方美香『幼児の身体表現 保育・教育シリーズ』久美

《授業時間外学習》

本授業で取り組む、身体表現について、TEAMSに提示する実技課題動画を参考にしながら予習・復習しておくこと。また、各学習内容に関する事柄について、図書またはインターネットなどを用いて予習・復習しておくこと。（本授業では15時間の時間外学修を必要とする）

《課題に対するフィードバック等》

毎回の授業後に提出する授業記録用紙に対してコメントを記載し、次回の授業内で返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児期における身体表現活動の意義	子どもの感性と身体表現、保育者の指導・援助に関する理解〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画①②を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
2	「からだ」のコミュニケーション	身体に着目した他者との関わり、立腰（実技試験）〔時間外学習〕本次で取り組んだ実技試験の内容についてスムーズにできるように反復すること（予習・復習1時間）
3	新聞紙を用いた表現活動（練習）	走る、模倣、破く、ゲームなど新聞紙を用いた活動の指導・留意点〔時間外学習〕参考図書①pp77～85の内容について予習・復習すること（合計1時間）
4	新聞紙を用いた表現活動（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
5	パラバルーン（練習）	基本的なパラバルーンの扱い方、基本的な技の練習〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画③を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
6	パラバルーン（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
7	スポーツの表現（練習）	スポーツを題材とした即興的な身体表現の創作〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
8	スポーツの表現（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
9	からだで窓をつくろう（練習）	個の表現から群の表現へと発展する身体の使い方〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
10	からだで窓をつくろう（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
11	リズムダンスの創作（基礎）	動きに関する基礎的な創作方法〔時間外学習〕TEAMSで提示した実技課題動画④を視聴し予習・復習すること（合計1時間）
12	「夏」の表現（練習）	夏を題材とした即興的な身体表現の創作〔時間外学習〕TEAMSで提示した資料の内容について予習・復習すること（合計1時間）
13	「夏」の表現（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験〔時間外学習〕実技試験の内容について予習し、試験後の自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）
14	リズムダンスの創作（練習）	オリジナルの動きを取り入れたリズムダンスの創作〔時間外学習〕実技試験に備えて、正確な動作、再現性を高める練習をすること〔予習・復習1時間〕
15	リズムダンスの創作（実技試験）	上記の授業内容を踏まえた実技試験、本授業の総括〔時間外学習〕実技試験の内容を予習し、自己や他者のパフォーマンスについて振り返る（復習）（合計1時間）

《専門科目》

科目名	人間関係領域指導法				
担当者氏名	岡澤　陽子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ◎　4-4 態度・志向性 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
この授業では、乳幼児が社会の中で主体として育っていく上で、土台となる人間関係について学ぶ。子ども自身の心や体に直接響く体験を具体的な事例を通して、少しずつ着実に刻まれていけるように修得する。そのためには乳幼児期に子どもたちがどれほど真剣に、自己、他者、人との触れ合いに向き合えるように、保育者としての感覚を磨く。

《授業の到達目標》
（１）領域「人間関係」のねらい及び内容並びに全体構造を説明できる。（２）幼児の心情、認識、思考及び動きなどを踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。（３）領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を説明できる。

《成績評価の方法》
授業内で記録するノート、学習レポートなどの提出物（40%）、最終筆記試験（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》
保育内容　人間関係　あなたならどうしますか？　最新版　編著　酒井幸子　萌文書林

《参考図書》
幼稚園教育要領（文部科学省）平成29年告示
保育所保育指針（厚生労働省）平成29年告示
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省）平成29年告示

《授業時間外学習》
・教科書の精読、及び授業内で配布された資料等について、予習復習を行う。教員からのフィードバックを基に、最終筆記試験に備える。
　本授業では15時間の時間外学習を必要とする

《課題に対するフィードバック等》
授業内で実施する学習内容の理解を確認するノートや学習レポート等の提出物については、翌週の授業内にフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼児教育の基本と領域「人間関係」	オリエンテーション。子どもと関わりながら「育てる人」へと転換するために、幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領の領域「人間関係」を考える。
2	好きな人との信頼関係を基盤に育つ	子どもの世界を感じよう (時間外学習)新生児・乳幼児の発達について復習する。
3	保育者としての感覚を磨こう	子どもはあなたを見つめている。失敗は学びの宝庫 (時間外学習)配布プリントを予習する。
4	乳幼児期の人間関係	乳幼児期の人間関係と生涯を通した「人間関係」の原理とその発達 (時間外学習)教科書第２章§１、§２について自分の考えをまとめる。
5	保育者やいろいろな友達のいる環境	仲間入りを巡る人とのかかわり （時間外学習）教科書第３章§１について読んでおく。
6	人との信頼関係	安心して園生活を送れるようにするための保育者のかかわり (時間外学習)教科書第３章§２について読んでおく。
7	けんかやいざこざから生まれるもの	事例「それでも絵本が欲しかった」について学ぶ。 (時間外学習）教科書第３章§３について読んでおく。
8	片付けと人間関係	片付けを巡る子どもと保育者の関係を様々な事例で学ぶ。 （時間外学習）教科書第3章、§４について読んでおく。
9	遊びと人とのつながり	物を介した人とのつながり。 （時間外学習）教科書第３章§５について読んでおく。
10	道徳性・規範意識の芽生え	幼児期における道徳性・規範意識の芽生え。 （時間外学習）教員の作成した資料について自分の考えをまとめる。
11	気になる子どもと他児とのつながり	一人一人の乳幼児の本当の気持ちがわかる先生に。 （時間外学習）教科書第3章、§７について読んでおく。
12	保護者支援と保育者の役割	テキストの事例を通して意見交換をする。 （時間外学習）教科書第3章、§８について読んでおく。
13	協同的な活動における体験・学びの芽生え	テキストの事例を通して考える。 （時間外学習）教員の作成した資料について自分の考えをまとめる。
14	指導案の作成と評価	ルールのある遊びについての教材研究・指導案の作成を行う。（グループ討議） （時間外学習）ルールのある遊びについて指導案を作成する。
15	園内の人間関係と保育者の自分磨き	ルールのある遊びについての指導案の実践と評価を行う。（グループ討議） （時間外学習）作成した指導案の評価とシミュレーションを考える。

《専門科目》

科目名	特別支援保育Ⅱ				
担当者氏名	東　敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-2 知識・技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

特別支援保育Ⅰでの学びをもとに、子どもの年齢ごとに運動・認知・社会性・基本的生活習慣などの発達の道筋を確認しながら、発達の遅れや偏りのある子どもの理解と対応を学ぶ。ケーススタディとして、0才から6歳までの子どもと保護者の様子を取り上げ、家庭や関係機関との連携をふくめた支援のあり方について自身の考えをまとめる。ディスカッションを通して、主体的、協働的な学びを深める。

《授業の到達目標》

①子どもの発達の道筋に添って発達の遅れや偏りを理解する
②事例から支援計画・保育計画を立案することができる。
③保育計画から保育展開を想定することができる。
④保護者への支援方法を論じることができる。
⑤他機関との連携について説明することができる。

《成績評価の方法》

授業の到達目標に基づき，課題等提出物20%，授業内の取り組み・発言等20%、定期試験60%で評価する。
総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

●尾野明美ら著「アクティブラーニング対応　エピソードから読み解く障害児保育」萌文書林,2019

《参考図書》

●「幼稚園教育要領 平成29年告示」フレーベル館
●「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 平成29年告示」フレーベル館
●「保育所保育指針 平成29年告示」フレーベル館
●「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部学習指導要領 平成29年4月告示」海文堂出版

《授業時間外学習》

教科書を用いて、授業計画に沿って予習復習に取り組んでください。（授業時間外学習は15時間です）。インターネットや書籍などを用いて、自身の住んでいる地域にどのような社会資源があるかなどについて調べ、特別支援保育に関する自身の考察を深めていきましょう。

《課題に対するフィードバック等》

提出課題や授業での発言等へ、その都度コメントを付すことでフィードバックしていきます。提出された課題を全体に紹介して意見交換することで学びを深めることもあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	0歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	0歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書ｐ2-9　復習：授業配布プリント
2	0歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	0歳児の事例について困難さと実態把握の方法を理解し、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書ｐ10～31　復習：授業配布プリント
3	1歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	1歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書ｐ32-40　復習：授業配布プリント
4	1歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	１歳児の事例について困難さと実態把握の方法を理解し、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書ｐ41～77　復習：授業配布プリント
5	2歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	2歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書ｐ78-85　復習：授業配布プリント
6	2歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	2歳児の事例について困難さと実態把握の方法を理解し、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書ｐ86～119　復習：授業配布プリント
7	3歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	3歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書ｐ120-126　復習：授業配布プリント
8	3歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	3歳児の事例について困難さと実態把握の方法を理解し、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書ｐ127～147　復習：授業配布プリント
9	4歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	4歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書ｐ148-154　復習：授業配布プリント
10	4歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	4歳児の事例について困難さと実態把握の方法を理解し、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書ｐ155～177　復習：授業配布プリント
11	5歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	5歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書ｐ178-183　復習：授業配布プリント
12	5歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	5歳児の事例について困難さと実態把握の方法を理解し、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書ｐ184～210　復習：授業配布プリント
13	6歳児の発達と遅れ・偏りの基礎理論	6歳児の発達とこの時期に見られる遅れや偏りの理解と対応について学ぶ。 予習：教科書ｐ211～214　復習：授業配布プリント
14	6歳児の発達と遅れ・偏りのケーススタディ	6歳児の事例について困難さと実態把握の方法を理解し、保育や配慮について学ぶ。 予習：教科書ｐ215～234　復習：授業配布プリント
15	特別支援保育の課題と展望	特別支援教育に関する知識の理解度を確認する。 予習：これまでの授業の復習　復習：試験結果を振り返る

《専門科目》

科目名	保育のピアノ応用Ⅰ				
担当者氏名	根岸　恭子、山田　真澄、平峯　章生、渡邉　公実子、肱岡　龍耶				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○　1-1 教養 ◎　2-2 知識・技能 ○　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》
本授業では1年次に習得した演奏技術を、2年次に行われる実習を視野に入れ、発展させていく。実習園から提示される課題曲等の対応も行い、保育の場での実践的な能力をつける。人前での童謡の弾き歌いやピアノ曲演奏の発表を積極的に取り入れる。

《授業の到達目標》
・童謡の弾き歌いは伴奏の難易度により取得点数が異なるが、その合計が合格基準の点数を満たすこと。
・参考図書①から③のピアノ曲が1曲演奏できる。
・簡単な初見視奏ができる。
・指定された音階と主要三和音を弾くことができる。

《成績評価の方法》
ピアノ実技成果発表50%、童謡弾き歌いもしくは童謡曲の初見伴奏45%、音階と主要三和音5%で総合的に評価し60%以上を合格とする。

《テキスト》
越智光輝「子どもとうたおう ピアノでド・レ・ミ!」三恵社

《参考図書》
（1）進捗状況に応じて次の①～③より各自で用意する。
①全訳バイエル 全音楽譜出版社
②ブルクミュラー25練習曲 全音楽譜出版社
③ソナチネアルバムⅠ巻 全音楽譜出版社
（2）幼稚園、保育所等の実習で演奏する曲

《授業時間外学習》
授業（個人レッスン）は練習の場ではなく、事前・事後学習で見つかった課題を解決する場と捉え、教員から提示された課題を自己学習して次回の授業に備える(本授業では15時間の時間外学習が必要です）。

《課題に対するフィードバック等》
童謡の弾き歌い発表および14週目に実施するピアノ実技成果発表について、実施後に改善点に関するフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学習の進め方について	授業内容と方法の説明、受講グループ及びピアノ曲の決定
2	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
3	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
4	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
5	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
6	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
7	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
8	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
9	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
10	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
11	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
12	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
13	童謡伴奏もしくは視奏 またはピアノ曲の演奏	1・2班：ピアノ曲（提示された課題曲）及び音階と主要三和音の練習 3・4班：童謡の弾き歌い発表、もしくは初見視奏
14	ピアノ実技成果発表	ピアノ曲の実技演奏（ノーカット、リピートなし）および 指定された音階と主要三和音の演奏
15	童謡伴奏の発表 実技成果発表の振り返り	童謡の弾き歌い発表と14週目に行ったピアノ実技演奏の振り返り 最終評価の確認

《専門科目》

科目名	食育論				
担当者氏名	大野　智子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 教養 ○　2-2 知識・技能 ○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性				

《授業の概要》

食育基本法の概要・食育の基本を理解し、食に関する感謝と子どもの食育に関する保護者との関わりについて理解し、伝統的な行事や作法と結びついた食文化や地域の特色ある食文化などを理解する。また、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」についての理解を深め、日本食文化の素晴らしさに気づき、未来に向けて継承していこうという気持ちを育めるよう授業をすすめる。世界の食文化についても学ぶ。

《授業の到達目標》

食に関する感謝と自然への感謝の気持ちが得られる。
子どもの食育に関する保護者との関わりについて理解する。
和食の基本的な形や四季折々の食材や調理法を理解する。
地域による伝統料理を知り、食育活動に生かせる。
各国の食事のマナーや作法を知り、グローバルな観点で食についての知識を得る。
全国の郷土料理についても理解する。

《成績評価の方法》

評価は、
授業態度（40%）
ノート、レポート、課題等（30%）
確認試験（30%）
総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

使用しない
プリントを配布する

《参考図書》

①禅が教えてくれる美しい人をつくる「所作」の基本
　枡野俊明（株）幻冬舎
②テーブルマナーの絵本　髙野紀子作　あすなろ書房
③産学協働による認定食育士制度の構築及び実践　テキスト
　「食育教養ラーニング」　国際学院埼玉短期大学

《授業時間外学習》

専用ノートを作成し、各回ごとのテーマに基づいた内容を、見やすく、分かりやすくまとめる。
本授業では、60時間の時間外学習を必要とする。
毎回の授業について、復習を中心に４時間の自己学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

講義内容がより理解できるよう、日頃から食に対して興味関心を持ち、授業に臨んでください。毎授業回の最後に質問を受け、回答する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	和食の文化とは、和食における「もてなし」の心	和食の基本的な形を理解する。ユネスコ無形文化遺産の登録された推進理由を知り、和食への興味関心が持てる。料理の盛り付け、季節に合わせた器、もてなしの心を知る。
2	食育の基本と内容	食育は「生きるうえでの基本であって、知育、徳育、体育の基礎となるべきもの」であり、食を営む力の育成に向けた基礎を理解する。
3	日本の食文化の充実 和食の三大基本マナー	大饗料理、精進料理、本膳料理、懐石料理の料理形式や特徴を知り、日本食文化の発展と自由な料理の時代への変化を知り、和食の三大基本マナーについて学ぶ。
4	優れた栄養バランス、幼児期の食事で気をつる事	バランスの良い食事（一汁三菜）とはどんな組み合わせなのかを理解し、健康的な食生活が送れるよう知識を深める。大人の関わり方で、幼児は楽しく食事ができる事を知る
5	幼児の成長と食事の工夫について	食べる機能の発育発達により、食形態を変える必要がある。成長に合った食べ物や食べ方や、保育者・保護者としての関わり方を理解する。
6	子どもの食を広げる料理や食材の工夫	食材の特徴を知り、幼児が食べにくい理由と食べやすくするための調理のコツや工夫を理解し、食育活動に活かせる。
7	季節の行事と結びついた食・地産地消の意義	季節の行事やならわしと結びついた食べ物を知り、使用する食材の効能や先人たちの思いを理解する。また、地産地消の意義を理解する。
8	旬の食べ物と効能	食べ物には、一番おいしくて栄養たっぷりな時期を「旬」という。収穫される時期や季節を知り、食材の「旬」を理解する。
9	鮮度を保つ方法や保存の仕方	食べ物を新鮮なまま、使うための工夫や保存の方法を理解する。また、食材をより美味しく食べるために乾燥したり、発酵させたりする方法を知り、食育活動にも生かせる。
10	5つの基本味、五感	人間の味の味覚は、「甘い」「酸味」「塩味」「苦味」「うま味」の5つの基本味を知る。五感（視覚、、嗅覚、味覚、触覚、聴覚）についても知る。
11	言葉の意味	「いただきます」「ごちそうさま」の意味や、身のまわりの「もったいない」を理解し、物の価値を生かす工夫を考え、自然の恵みや感謝、思いやりの気持ちを持つ。
12	所作を整える	日本の美しい心をもっと深く知り、所作を整え、食事の仕方、食事のおもてなしなどを理解し身に付ける。
13	日本の郷土料理について	日本には、その土地の気候や収穫される食材を生かして、様々な郷土料理がある。郷土料理が受け継がれる背景も知る。
14	世界の郷土料理について	前回と同様、世界各国にもその土地の気候や収穫される食材を生かした様々な郷土料理がある。その特徴を知る。
15	食育活動のいろいろ	食べ物の組み合わせのウソ・ホント？　食育なぞなぞなどを通して、子どもたちへの食育活動に繋げることができる。

《専門科目 教育の基礎的理解に関する科目》

科目名	教育実習指導Ⅱ				
担当者氏名	桐原　由美、馬場　結子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　3-3 汎用的技能 ○　4-4 態度・志向性 ◎　5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

授業の概要
あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる保育実践について学ぶ。また、幼稚園教育実習のために必要な記録力、考察力を養うと同時に社会性を身につけ、本学の「育てたい保育者像」を目標に本科目を学ぶ。

《授業の到達目標》

教育実習（責任実習）に必要な知識、態度、技術を身に着けることができる。
教育実習（責任実習）に参加する自己課題を明確にし、表現することができる。
実習に対する振り返りを通して、自己の実践力や保育者としての課題を理解し、今後の実習に役立てることができる。

《成績評価の方法》

提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、60%以上を合格とする。

《テキスト》

〇大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ｶﾞｲﾄﾞ」中央法規2020〇小櫃智子他「実習日誌・実習指導案ﾊﾟｰﾌｪｸﾄｶﾞｲﾄﾞ」わかば社2015〇「実習の手引き」

《参考図書》

〇幼稚園教育要領および同解説
〇幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
〇無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
〇植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
〇保育用語辞典
その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

①実習の手引きを常に熟読し活用すること②実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日時に遅れることがないようにすること。③部分・責任実習に向けて教材研究を行う。④実習で必要とする文書の作成等⑤本授業では29時間の時間外学修が必要です。

《課題に対するフィードバック等》

提出物等は内容を確認した上で受領、返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報をフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習生調書及びオリエンテーション	１年次の実習の振り返り・実習生調書の作成
2	責任実習の意義	責任実習の意義と実施要件 実習前試験
3	部分実習	部分実習指導案の書き方
4	責任実習	責任実習指導案の計画と書き方
5	実習の記録	記録方法とエピソード記述
6	実習直前指導	オリエンテーションに向けて 実習中のQ&A　実習後の手続き
7	実習後事後指導①	教育実習振り返り①（グループワーク：子どもの活動と保育者の援助）
8	実習後事後指導②	教育実習振り返り②（子どもから学んだこと・保育者から学んだこと、自己評価と今後の課題）
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-